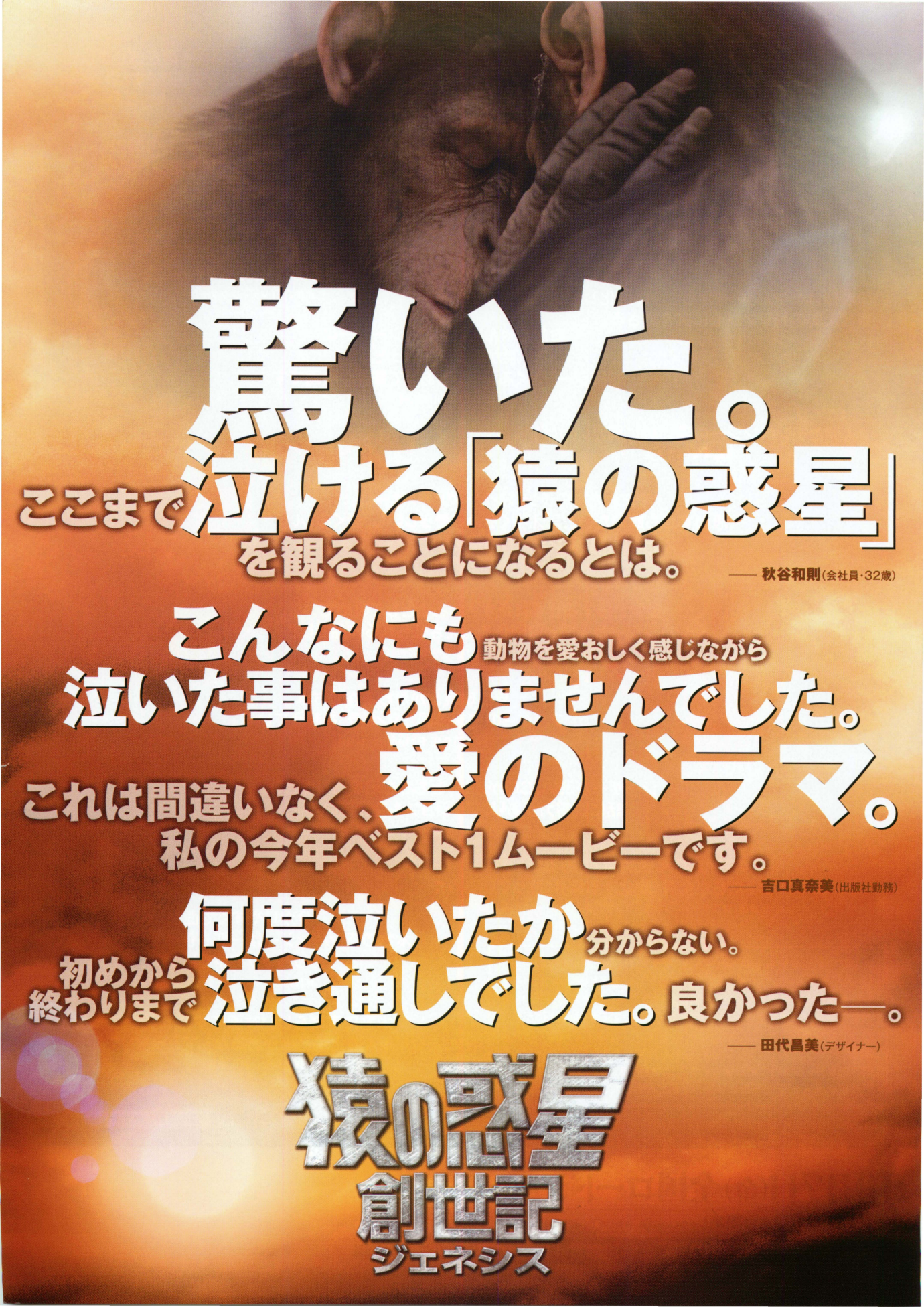




驚いた。 泣ける「猿の惑星」

ここまで

を観ることになるとは。

—— 秋谷和則 (会社員・32歳)

こんなにも 動物を愛おしく感じながら
泣いた事はありませんでした。

これは間違いなく、
私の今年ベスト1ムービーです。

—— 吉口真奈美 (出版社勤務)

何度泣いたか 分からない。

初めから
終わりまで 泣き通してでした。良かった——。

—— 田代昌美 (デザイナー)

猿の惑星
創世記
ジェネシス

『猿の惑星:創世記』は、フィクションです。
しかし、チンパンジーが本来たいへん優れた知性を持ち、
どのような生き物であるかを伝えています。
チンパンジーを知ること、「人間とは何か」を
深く考えることになるのではないのでしょうか。

—— 松沢哲郎(京都大学霊長類研究所教授・所長 / 字幕監修) ——

人類の文明はこんなにも脆いものなのか。
手に汗握るリアルな映像の連続に圧倒された。

—— 蟹瀬誠一(明治大学国際日本学部長) ——

この映像は、『アバター』からさらに進化!
猿と人間のドラマが心に突き刺さる。

—— ヤングマガジン(講談社) ——

お爺ちゃんに抱きつくシーザーに
涙が止まらなかった。
結構ジーンとくるシーンもあって好きな映画です。

—— 神本沙智(OL・29歳) ——

人間とチンパンジーの深い絆に胸がいっぱいです。

—— 松島希美(専門学生・19歳) ——

産まれたてのチンパンジーのシーザーは、
思わず私も飼いたいと思えるくらい可愛いし、愛くるしい。
女子的に泣けるシーンも結構あってお勧めです!

—— 長谷川仁美(TVディレクター) ——

動物と接する仕事にたずさわる者として改めて
チンパンジーと人間との関係を考えさせられる作品でした。

—— 平賀真紀(ズーラシア チンパンジー飼育担当) ——

自然環境とかかわる在り方は、
アバターの空想の国“バンドラ”を超えている。

—— TIME Entertainment ——

シーザーが渋い。CGが渋い。どちらも魂を感じさせる。
話に説得力があり、アクションも弾けている。

—— 芝山幹郎(評論家) ——

この映画は「階級闘争」である。
問題は観ている僕たちが全員「敗北する側」に立っている点だ。

—— 岡康道(タグポート クリエーティブ ディレクター) ——

STORY

新進気鋭の科学者ウィル(ジェームズ・フランコ)が新薬開発の実験用に飼っていたチンパンジーが、研究所内で暴れて射殺された。ウィルはその赤ん坊を自宅に持ち帰り、シーザーと名付けて密かに育てる。母の特殊な遺伝子を受け継いだシーザーはすくすくと成長するが、ある事件がきっかけで霊長類保護施設に入れられてしまう。このときすでに育ての親であるウィルの想像をはるかに超え、並外れた知能を有したシーザーは、人間の愚かさに失望してある決意のもとに動き出す。それは地球上の生物の進化の概念を覆し、新たな神話の序章となる壮大な闘いだった……。

生物の強さ、みたいなものを感じました。
“語りたくなる映画”ですね!

—— 高崎知子(主婦・45歳) ——

権力ある強者に抑圧された才能ある弱者の闘い…
それをシーザーという姿で見事に描ききった傑作。

—— 河原一久(TVディレクター) ——

また『猿の惑星』にやられてしまった。
第1作から43年。映画の技術はどこまで進化するのか。
楽しみでもあり、恐ろしくも感じた。

—— 三島快之(TVディレクター) ——

分かりやすく面白いです!

本物のチンパンジーは一匹も使ってないんだって〜
めっちゃリアルでビックリ!

—— 有坂翔太(フードアーティスト・料理家) ——

本当に素晴らしい映画ですね!
その上ウィルス進化論と縁があるなんてビックリです。

—— 中原英臣(新渡戸文化短大校長) ——

(敬称略)

監督:ルパート・ワイアット 出演:ジェームズ・フランコ、フリーダ・ビント、ジョン・リスゴー、アンディー・サーキス 2011年 / アメリカ映画 / 配給:20世紀フォックス映画

猿の惑星 ジェネシス 検索

10月7日(金)全国ロードショー

全国先着 20,000名様限定! ※なくなり次第、特典付きでの販売は終了となります。

オリジナル“猿の知恵の輪”付 特別鑑賞券発売中!

